

# TIC NEWS

vol. **88**  
2008.7

(財)とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5  
インテックビル4F(タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail: [tic@tic-toyama.or.jp](mailto:tic@tic-toyama.or.jp)

URL: <http://www.tic-toyama.or.jp>



カルタで楽しく日本語の勉強！

## 多文化こどもサポートセンター OPEN！

外国籍の子ども達が気軽に集まることのできる場所を作ろうと、射水市放生津地区で多文化こどもサポートセンターを開設しました！

# ～TIC 平成20年度新規事業より～

## ビートルズで英語を勉強しよう

日時：平成20年6月6日(金) 13:30～16:00

場所：環日本海交流会館

日本人に馴染みがあるビートルズの楽曲から選択し丁寧に解説し、発音指導も行う「ビートルズで英語を勉強しよう(全7回)」の第1回目を開催しました。

アメリカ・オレゴン州出身の英語国際交流員 ニコラス・ギャラガーが担当し、英語での講義と日本語での自由討論の二部構成で行いました。

今回の曲は、アルバム「Rubber Soul」に収録されている「Norwegian Wood」。この“Wood”が森なのか家具なのかという論争を紹介し、歌詞の内容からするとノルウェー製の家具ではないかとの意見を述べ、参加者と意見交換をしました。

参加者29名は、高校生から団塊の世代まで様々で、それぞれの思いでビートルズの名曲を堪能しました。



## お茶ットルーム

日時：平成20年6月12日(木) 18:30～20:00

場所：環日本海交流会館



お茶ットルームは、いろんな国のお茶を飲みながら、アメリカ、ロシア、ブラジル、中国、韓国からの6名の国際交流員をコーディネーターとして、参加者の皆さんと一緒に

外国にいるような楽しい空間を創ろうという試みで始めました。4月15日が初回で、今回は3回目です。毎月1回のペースで様々な生活文化を背景にもつ人が集い、お互いの言葉と五感を使って理解を深めています。

参加を希望される方はマイカップを持参ください！皆さんの国のお菓子等があれば嬉しいです！

～次回のお茶ットルームについては  
TICのホームページをご覧ください～

## 外国人住民にも日本人住民にも暮らしやすい地域づくりを目指して

### 生活支援日本語ボランティア養成講座 in 黒部(前期)

会場：黒部市国際文化センター コラーレ

日時：平成20年5月17日(土)～6月21日(土)

毎土曜日 全6回 10:00～12:00

### 生活支援日本語ボランティア養成講座 in 富山(前期)

会場：環日本海交流会館

日時：平成20年6月3日(火)～8月5日(火)

毎火曜日 全10回 15:00～17:00

19年度から始めた生活支援日本語ボランティア養成講座地域編、2年目の今年は黒部で開講しました。

支援者にとって、外国人の方と話をするとき、次のことが必要となります。言葉遣いの面では、①短い文で話す②繰り返して言ったり、言い換えて言ったりする③筋道の通った話し方をするなど。気持ちの面では、①相手の話をしっかり聞く②相手に興味を持ち、そのことをアイコンタクトや相づちなどで積極的に表すなどの「わかり合う日本語」です。そして、会話の中で「おいてけぼり」を作らないことも大切です。

講座2回目、早速、日本語がまだよくわからない外国人と話すことに挑戦してもらい、その体験の中から、「わかり合う日本語」について学んでもらいました。

受講生の中には、海外経験者も多く、実際に「おいてけぼり」を体験した方もいて、その後の振り返りの中で、「異国で生活するときの不安を改めて思い起こした」、「かつての自分の経験を振り返った」などの意見がありました。

また「どうして…どうしてと質問攻めにすると萎縮してしまう」、「笑顔で会話する」「自分ひとりだけで話さず、グループの人全部を仲間に入れるように心掛ける」「一人が話しているとき、顔をみてあげる」など「わかり合う日本語」を実体験した感想を聞くことができました。

7月から開講する日本語教室に向けて、皆さん熱心に取り組んでいます。

平成10年度から続けている富山市内での養成講座は6月に開講しました。今回は、既に、地域の日本語教室で活動している方々が受講しています。その経験を踏まえて、双方向の学びの場としての地域の日本語教室について必要なことについて学んでいます。



## 新しい国際交流員よりご挨拶！

### とう りつほう 佟 立峰さん（中国）

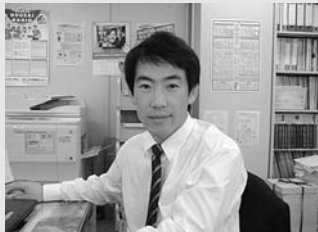
皆さん、こんにちは。私は中国北東地区にある遼寧省瀋陽市から参りました佟立峰と申します。今年のJETプログラムの参加者として4月11日富山に到着し、皆様のおかげで順調に楽しい3ヶ月を過ごしています。

富山県は大自然に恵まれ、壮大な立山連峰や深くて海洋資源が非常に豊富な富山湾があり、そして優しく粘り強い県民たちなど、いろいろな面から感動を与えてくれます。

遼寧省について、皆様はどのぐらい御存じですか？出身地の遼寧省は、昔、重工業と原材料生産基地として新中国の発展に多大な貢献をし、中国の長男と呼ばれています。歴史の流れに置いて、その長男が大変だったのですが、今は中国中央政府から政策や資金など有力なサポートをもらい、各方面の困難を乗り越え、高度発展の一番素晴らしい時期を迎えてきました。

今年の国際交流員として、これからの両省県の経済協力や各方面での交流事業などに自分の力を奉げ、頑張りたいと存じております。両省県の相互の発展への道を求めながら、自分の能力を磨いてアップさせたいと存じております。

以上、よろしくお願ひします。



### しょう しょう 鐘 婕さん（中国）

皆さん、はじめまして。中国上海から参りました鐘婕です。上海生まれ上海育ちで、大学も大学院も上海なので、上海のことをよく知っています。人口1800万ぐらいの大都会で、朝の通勤は大変です。地下鉄とバスの乗り換えで一時間半かかるのが普通、自家用車でも渋滞でたいてい50分から1時間ほどの時間が必要です。上海市内には一軒屋はほとんどなく、みんな7階から20何階のマンションに住んでいます。上海シティーは全体的に明るくて、いきいきとした雰囲気があります。パリや東京にも負けないぐらいお洒落な所もあれば、庶民的な下町も、昔風の庭園も、郊外には水郷のような観光地もあります。そして、上海料理は上海ガニだけではなく、上海の特色が伝わるおいしいものもいっぱいあります。ぜひ上海にお越しください。

富山にきてあつという間に3ヶ月がたち、すっかりここの生活を楽しんでいます。騒々しい上海と違い、静かで綺麗な富山にいて、なんとなく心が落ち着きます。多くの友達もできて、ここでの生活は、人生の大切な思い出になるのではないかと思います。

これから多くの日本人に中国の事を知ってもらい、そして多くの中国人に富山の魅力と良さを知ってもらえるように頑張ろうと思います。よろしくお願ひします。



## 富山県多文化共生推進連絡会議

日時：平成20年5月26日(月) 13:00~

場所：富山県市町村会館

富山県内の多文化共生事業を推進するために関係機関や団体40団体と連携を図るための会議を開催しました。

まず富山県国際・日本海政策課より行政や民間団体も含めての富山県内の多文化共生事業の主な取組みについて報告があり、次に富山県教育委員会から外国人児童生徒教育に関する報告がありました。

引き続き、富山労働局、富山市民国際交流協会、最後に当センターからそれぞれの多文化共生に関する取組み事例を報告し、情報を共有しました。

その後、多文化共生に関する意見、情報交換で会議を終了しました。



## 外国籍こどもサポートプロジェクト

# 多文化こどもサポートセンターOPEN！

6月7日、射水市内の小学校で最も外国籍児童が集住している射水市放生津地区で多文化こどもサポートセンターを開設しました。このサポートセンターは、第1・第3土曜日の午前10時から12時まで射水市放生津公民館第4研修室で開きます。子どもたちは、学校の宿題、折り紙などの遊びや日本語の学習をします。また、この運営は、昨年度実施した多文化共生サポーター養成講座の修了生を中心とするサポーターの皆さんの協力で行っています。

初日は、ブラジル、中国、ロシア、パキスタン出身の放生津小学校の児童12名が参加しました。

最初に、サポートセンターの事業内容など、そして公民館利用に際して注意することなどオリエンテーションを実施した後、サポートセンターの活動に入りました。

まず取り組んだことは、子どもたちやサポーターが多言語で挨拶を交わすことができるように、ポルトガル語、中国語など8ヶ国語の多言語あいさつポスターを作成しました。

その後は、それぞれ漢字の練習などの学校の宿題や、サポートセンターのスタッフと折り紙、ひらがなカルタなどをしました。

サポートセンターでは、第1、第3土曜日以外にも、日曜日を中心に、七夕など季節ごとの行事を実施するなど、子どもたちが気軽に集まることができる雰囲気作りを心がけていきます。



## サポーターセンター事前研修会

日時：5月25(日) 14:00～

場所：あゆの風センターホール（射水市）

多文化こどもサポートセンターオープンの前に、運営に協力していただけるサポーターの事前研修会を開催しました。

「サポーターの心構え」と題して、子どもの日本語グループ代表の米田哲雄氏に、実際の活動を踏まえて、これから活動を始めるサポーターへ助言していただきました。

その後、事務局からサポートセンターの運営について説明し、意見交換を行いました。

一番の重要なポイントは、子どもたちが自由に集まることができる場の提供であり、サポーターも構えることなく気軽に参加してもらえることを実感してもらうことが大切だと考えています。

### 【主な意見】

- ・いきなり日本語教師になろうとしても無理。
- ・サポーターの研修期間を設けるべき。
- ・大勢の子どもが来たときの対応はどうすればいいか？
- ・サポーターも教材について学習する時間が必要。
- ・学校と連携することが先決ではないか？
- ・センターのカリキュラムが必要ではないか？
- ・宿題を教えるだけでは意味がないのでは？



講師の米田氏



研修会の模様

# 射水市多文化共生実態調査結果

## 調査目的

今回の射水市多文化共生実態調査（以下、実態調査）の目的を、大きく「外国籍の子どもたちの就学率算出」、「外国籍の子どもたちのニーズ把握」、「射水市民の意識調査」の3点に絞り、調査結果を今後の射水市周辺地域での多文化共生事業を実施する上での参考とすることとした。

## 調査期間

平成20年2月12日(火)～2月29日(金)

## 調査対象属性と調査方法

### (1) 外国籍の子ども（義務教育年齢）

平成20年2月1日現在の射水市外国人登録をもとに調査した。義務教育年齢134人のうち、不就学の可能性のある子どもは34人を戸別訪問し、所在を確認してアンケートを配布した。のこり100人には、アンケートを送付した。

### (2) 外国籍住民（16歳以上）

平成20年2月1日現在の射水市外国人登録をもとに、16歳以上を無作為で200人抽出し、アンケートを送付した。

### (3) 日本人（義務教育年齢）

平成20年2月1日現在の住民基本台帳をもとに、小学生、中学生9学年から各学年12人計108人を無作為抽出し、アンケートを送付した。

### (4) 日本人（16歳以上）

平成20年2月1日現在の住民基本台帳をもとに、200名を無作為抽出し、アンケートを送付した。

## 調査結果

### (1) 外国籍の子どもたちの就学率

#### ■小学校 94.4%

不就学の可能性がある学齢期の子ども34名を戸別訪問した結果、既に帰国している子どもや外国人登録の住所に当該の住民以外の方が既に住んでいることも判明した。これらの人数は合わせて15名となり、学齢期の外国人登録者105人ととの差90人を実際の人数とした。これにより小学校の就学率94.4%が算出できた。

#### ■中学校 82.6%

小学校と同様に戸別訪問調査により、帰国が判明した者と外国人登録の住所に所在が確認できなかった者合わせて6人となり、学齢期の外国人登録者29人ととの差23人を実際の人数とした。これにより中学校の就学率は82.6%を算出した。

### (2) 学校別在住内訳

小学校、中学校の校下別に外国籍の子どもたちの集住を調査した。結果、小学校では、放生津小学校が全体の22.2%、太閤山小学校が21.1%となり、また中学校では、小杉中学校が全体の30.4%、新湊南部中学が26.0%となった。

### (3) 子どもたちのニーズ

調査の中で、多文化こどもサポートセンターに期待することの回答では、スポーツ、ゲーム、工作、日本語の勉強という結果を得た。

### (4) 射水市民の意識

文化や習慣がちがう外国人とどのように生活するか？という設問に、日本人の子ども（義務教育年齢）は、互いの文化を認め合って生活（57.8%）、それぞれの文化・習慣で別々に生活（3.8%）、外国人は日本の文化・習慣で生活（34.6%）、外国人は外国で生活（3.8%）となった。また、日本人（16歳以上）は、互いの文化を認め合って生活（58.2%）、それぞれの文化・習慣で別々に生活（3.0%）、外国人は日本の文化・習慣で生活（31.3%）、外国人は外国で生活（1.5%）、無回答（6.0%）となり、日本人（義務教育年齢）と日本人（16歳以上）はほぼ同じような割合となっている。

## 継続的な調査

今回の調査結果は、現時点での射水市の多文化共生の実態を表していると考え、継続的に射水市多文化共生実態調査を行い、これらの数値が射水市における多文化共生の進捗状況を示す指標のひとつになると考える。

#### ■小学校

学齢別の外国人登録者数	105名
帰国が判明した者と登録の住所に所在が確認できなかった者	15名
実際の在住人数	90名
就学児童数	85名
就学率	94.4%
(外国人登録者数からの就学率)	(81.0%)

#### ■中学校

学齢別の外国人登録者数	29名
帰国が判明した者と登録の住所に所在が確認できなかった者	6名
実際の在住人数	23名
就学児童数	19名
就学率	82.6%
(外国人登録者数からの就学率)	(65.5%)

## 市町村国際交流・協力、多文化共生担当課長会議

日時：平成20年5月29日(木)

場所：富山県市町村会館 研修室

富山県では年々外国人住民が増えており、それに伴い多文化共生への取り組みを着実に進めています。

今年の市町村国際交流・協力、多文化共生担当課長会議では、宮城県経済商工観光部国際政策課課長補佐の藤田裕之氏を迎え、「宮城県における多文化共生の推進について」というテーマで講演していただき、宮城県の状況や外国人登録の状況、「多文化共生社会の形成の推進に関する条例」の概要や制定の経緯、計画の策定と、現行施策、課題についてお話いただきました。その後の質疑応答では、参加者の皆さんから多文化共生へ向けて活発な意見交換が行われました。



### JICAボランティア元隊員からの現地レポート

今回はポリビア共和国から届いた青年海外協力隊 中山恵さんからのお便りをご紹介します。

初めて任地を訪れたとき、その広大な土地と広い空に驚かされたのを今でも覚えています。国土面積が日本の3倍もあるポリビアは、高地帯にはアンデス山脈、低地帯には熱帯雨林を併せ持ち、豊かな生物多様性とそれを育む自然環境はポリビアが誇れるものの一つだと思います。

しかし、そこに住む人々の自然や環境に対する意識は低く、美しい自然景観とは裏腹に、町の道端にはゴミがあふれ、ゴミ処理場という名でゴミが野積み状態なのが現実です。

しかし、ゴミとして捨てられてしまうものの中にはまだまだ利用価値があるものがたくさんあります。その中の一つが「生ゴミ」です。ポリビアではまだまだゴミの分別するシステムが無く、ゴミの収集を行っていない町もあります。

そのような背景から、小学校の給食で出されるバナナの皮（ポリビアの小学校は授業が午前中だけなので、日本のような給食はありません。授業の休み時間にバナナとミルクが配られます）や生ゴミを利用して、「生ゴミ堆肥づくり」を行いました。このような活動を通して、将来のポリビアを担う子供たちに「捨てればゴミ、使えば資源」の精神を伝え、環境に負荷をかけない生活を提案していきたいと思っています。



中山 恵さん

派遣国：ポリビア共和国

職種：獣医師

派遣期間：平成18年6月～20年6月

配属先：農牧省北部牧畜協会

#### 青木 アナ マリアさん

Q. 今、どんなお仕事をされていますか？

A. サンパウロ市内の日本の通信社で、記者のアシスタントを勤めています。ブラジル、中南米各国で起きているニュースのチェックやデータ収集、情報確認などをしています。現地ではポルトガル語とスペイン語しか通じないため、仕事では日本語が必要になります。毎日新しい事を学べるのがこの仕事の良いところです。

Q. ブラジルの状況について教えてください。

A. ルーラ大統領は2期目を迎え、そのカリスマ性と元労働党党首の経験を存分に生かし、政治・経済を安定させています。インフレは抑制され、フレックス車（ガソリンでもエタノールでも走る車）などが購入できるようになってきました。

今、若者の間では手巻き寿司が人気を集めています。そのファーストフード店の名は“テマケリア”といい、リオなど多数の都市で流行しています。皆さんはチキン、ピーマン、タバスコ、或いはイチゴ、チョコ、チーズといった具の手巻き寿司は食べたことがありますか？



サンパウロ市内

今年はブラジル移民100周年となり、今では日系6世が誕生しています。皇太子殿下のブラジル訪問をはじめ、日本の音楽、ファッション等に関する催しが開催されています。

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 国際交流員として1998年から3年間富山に滞在しました。富山県でブラジルの文化、習慣を伝えることができ楽しい日々を過ごしました。大自然に囲まれ、多くの県民との出会いがあり、色々な愛着が生まれました。たくさんの良い思い出、良い体験をさせて頂き、人生の貴重な宝物になりました。なので、富山は私の第二の故郷で、より一層親しみを感じています。

Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A. 滞在中にご指導を賜り、とても親切にして頂いたことは一生忘れられません。素晴らしい思い出を作った富山の皆様に心から感謝します。ありがとうございます！



## 平成20年度の国際交流協力活動助成団体決定！

TICでは県内で国際交流・協力活動および多文化共生活動を実施している民間の非営利団体等が主催する事業に対し助成します。平成20年度の助成団体は以下の団体に決定しました。

	団体名	事業名
1	南砺市友好交流協会	なんと多文化共生国際交流フェスティバル
2	特定非営利活動法人富山県日中友好協会	2008富山県中国語スピーチコンテスト
3	日印友好クラブ	日印友好事業「シタール演奏会」
4	太閤山日本語グループ	ワイワイにほんご・たいこうやま開催事業
5	富山おはなしの会	語りワークショップセミナー&公演会 『ストーリーテリングの世界へ！』
6	ブラジル移民100周年記念祭EM高岡実行委員会	ブラジル移民100周年記念祭EM高岡 フットサル大会
7	NPO法人地球の夢	フィリピンのゴミ山付近に住む子ども達の学校環境作りと栄養の向上を図る事業
8	富山ロシア協会	2008年日ロ友好フォーラム参加の旅
9	アートスペースプロジェクトとやま	小さな響きの展覧会 Kyoten vol.6

# ラミントン

ラミントンは昔からあるオーストラリアのケーキでオーストラリア人なら必ず一度は食べたことがあるものです。第8代クイーンズランド州知事ラミントン男爵の名にちなんでつけられたと言われていますが肉肉なことにラミントン自身はこのデザートが大嫌いだったと言われています。オーストラリアでは2006年7月21日が“ラミントンの日”と制定されたほど国民的なケーキになっています。



## ～作り方～

1. 金網を用意する。
2. カステラを8個に切り分ける。
3. 粉砂糖とココアパウダーをふるいにかける。
4. 細かくしたバターとお湯をボールに入れ、バターが溶けるまで混ぜる。出来たもの3に注ぎかき混ぜデコレーション用のクリームを作る。
5. 大きい皿にココナッツフレークを置く。
6. 1個分のカステラをとり、デコレーションクリームをつけ、ココナッツフレークを全体にまぶし出来上がり。（ココナッツの上で転がす）



## ～材料(ラミントン8個分)～

- カステラ ……………300g
- 粉砂糖 ……………1.5カップ
- ココアパウダー ………1/4カップ
- バター……………50g
- ココナッツフレーク ………100g
- お湯 ……………1/4カップ

## TICからのお知らせ

### これからの行事予定

#### 日本語教室 in 黒部

7月6日(日)～ 10:00～11:30  
黒部市国際文化センター

#### 英語教育セミナー「小学校に英語がやってきた」

7月6日(日) 10:00～15:00 環日本海交流会館

#### とやま国際塾

7月19日(土)～20日(日) 国立立山少年自然の家

#### 多文化子ども交流会

7月24日(日) 13:00～16:00 射水市橋下条公民館

#### 子ども英語塾

7月28日(月) 13:30～14:30 環日本海交流会館

#### 生活支援日本語ボランティア養成講座(にほんご基礎知識編)

8月26日(火) 14:00～16:00  
環日本海交流会館 (全10回)

### 環日本海交流会館の図書が増えました！

今年3月の富山県国際交流センター廃止に伴い、同センターに所蔵していた図書、DVD等を会館にて引き続き閲覧・貸し出しを行います。これからも是非ご活用ください！

#### 【開館時間】

月～金 10:00～21:00  
(水曜除く)

土、日、祝 10:00～17:00

TEL 076-444-7679

E-mail [kaikan@tic-toyama.or.jp](mailto:kaikan@tic-toyama.or.jp)

URL <http://www.tic-toyama.or.jp/>



[kaikan/kaikan.html](http://www.tic-toyama.or.jp/kaikan/kaikan.html)

### TIC外国人生活相談スケジュール

【場所：(財)とやま国際センター 富山市牛島新町5-5 インテックビル4階】

	月	火	水	木	金
英語	13:00～17:00	—	13:00～17:00	—	13:00～17:00
ポルトガル語	13:00～17:00	12:30～16:30	9:00～12:00 13:00～17:00	12:30～16:30	13:00～17:00
ロシア語	—	—	13:00～17:00	—	13:00～17:00
中国語	13:00～17:00	—	13:00～17:00	第2,4 12:30～16:30	13:00～17:00
韓国語	—	第2,4 12:30～16:30	13:00～17:00	—	—

【場所：射水市小杉庁舎 201会議室 射水市戸破1511】

ウルドゥ語 第2、4金曜日 14:00～17:00